氏名	**谷 崎 勝 朗**
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第576号
学位授与の日付	昭和48年 9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**好塩基球に関する研究** **第一編　好塩基球および好酸球の同時直接算定法の考案とその臨床的評価** **第二編　気管支喘息における好塩基球の動態に関する研究** **第三編　慢性骨髄性白血病における好塩基球の動態に関する研究**
論文審査委員	教授 妹尾左知丸　教授 大藤　真　教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

第1編　新たに好塩基球および好酸球の同時直接算定用染色液を改良考案し，その染色液の安定性，染色性の良否，沈澱物出現の有無などについて検討を加えた。さらにこの染色法を用いて種々疾患における好塩基球および好酸球の動態について詳細な検討を加えた。

第2編　第1編において詳述した染色法を用いて気管支喘息における好塩基球および好酸球の動態を，非発作時，発作前，発作時の3段階に分け，またステロイドホルモン未使用時，使用時，中止直後に分け詳細な検討を行ない，好塩基球が喘息発作と密接な関連を有していることを明らかにした。

第3編　同様第1編で詳述した染色法を用いて好塩基球を形態学的にⅠ～Ⅴ型にまで分類し，Basophilogramを作成することにより，慢性骨髄性白血病における Basophilogram の変動を詳細に観察し，慢性骨髄性白血病の病状の変化と Basophilogram の変動が比較的よく一致することを見いだした。

論文審査の結果の要旨

本研究は，血液細胞学の分野において現在尚その機能が十分明らかでない好酸球及び好塩基球について新しい染色方法を考案し，この方法を用いて喘息患者及白血病患者について同細胞の動態並に形態の変化を追及し，従来の概念と異り，好酸球よりもむしろ好塩基球の動態と形態変化と病状が密接に関係していることを明らかにしたもので価値ある業績と認める。

よって，本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。